



最近の金融問題について

近畿大学 経済学部
教授 安孫子 勇一



1. 話題の「不良債権」とは？

- 健康の問題と良く似た面が色々ある
- 貸出には返済不能のリスクがつきもの
当初予定通りの収益が上がらず、返済困難となる貸出案件が確率的に発生するため
(貸出時点では誰が問題か分からない)
- 中年になると、身体の色々なところに問題が生じることに似ている

1-2 高度成長期～バブル期の 金融業

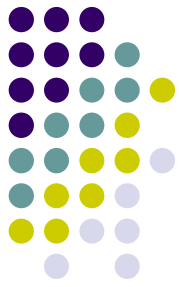
- 土地・株などの担保が有効に機能
返済不能時でも、担保処分で概ね回
収できていた

右肩上がりの地価

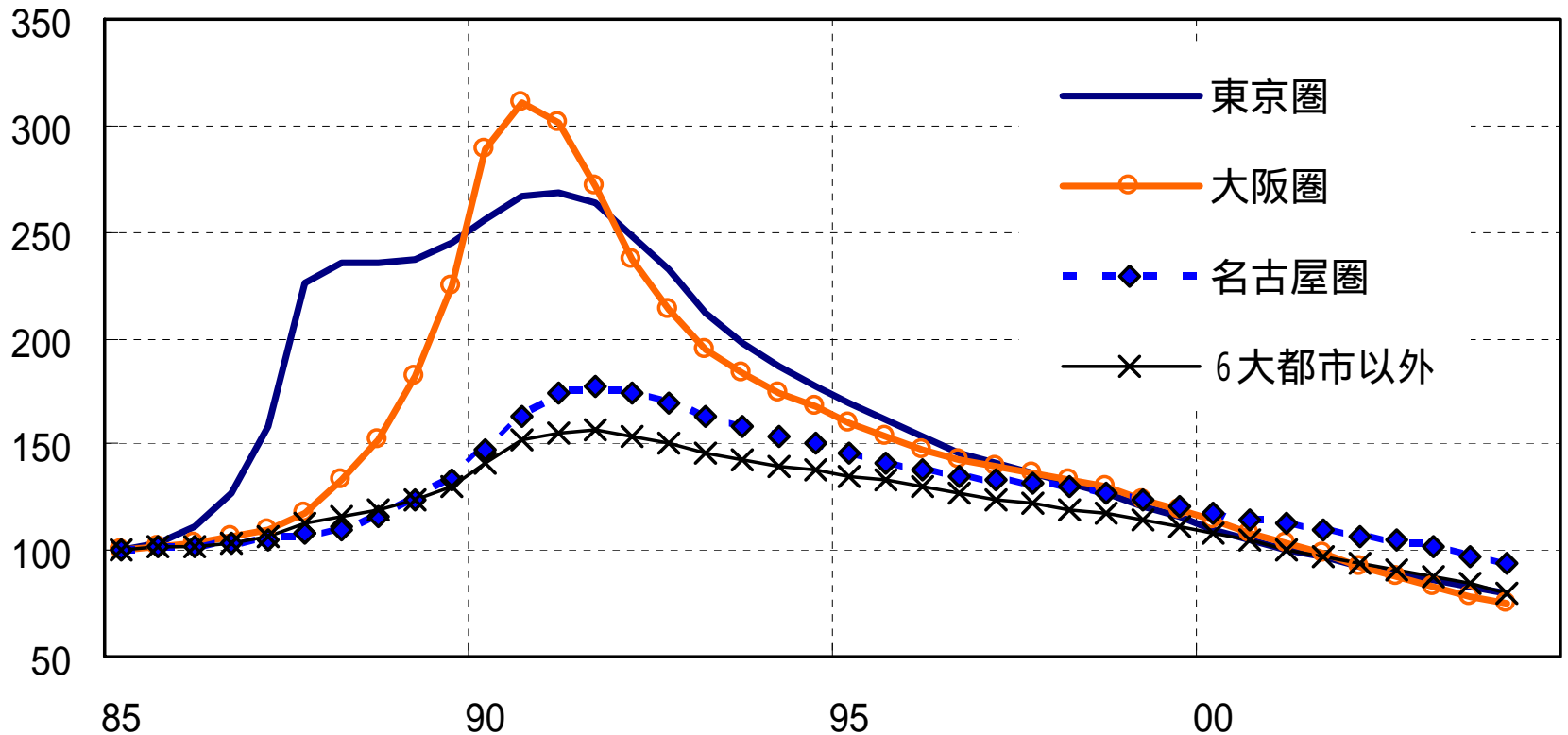
- からだを壊しても、十分な保険がでる状態
に似ている。

体調に対する関心が少し薄かった面も。

(参考) 日本の地価の推移



地域別の地価変動(85/3月末=100)



資料: 市街地価格指数(日本不動産研究所、全用途平均)



1-3 バブル崩壊後の金融業

- 担保の有効性が大きく低下

 - 下げ止まらない地価

 - 地価下落などにより、担保処分分で回収できない貸出が多数発生した

- 保険が不十分で、からだを壊した時の損失をカバーできない家計に似ている

1 - 4 不良債権と正常債権の境界線は？

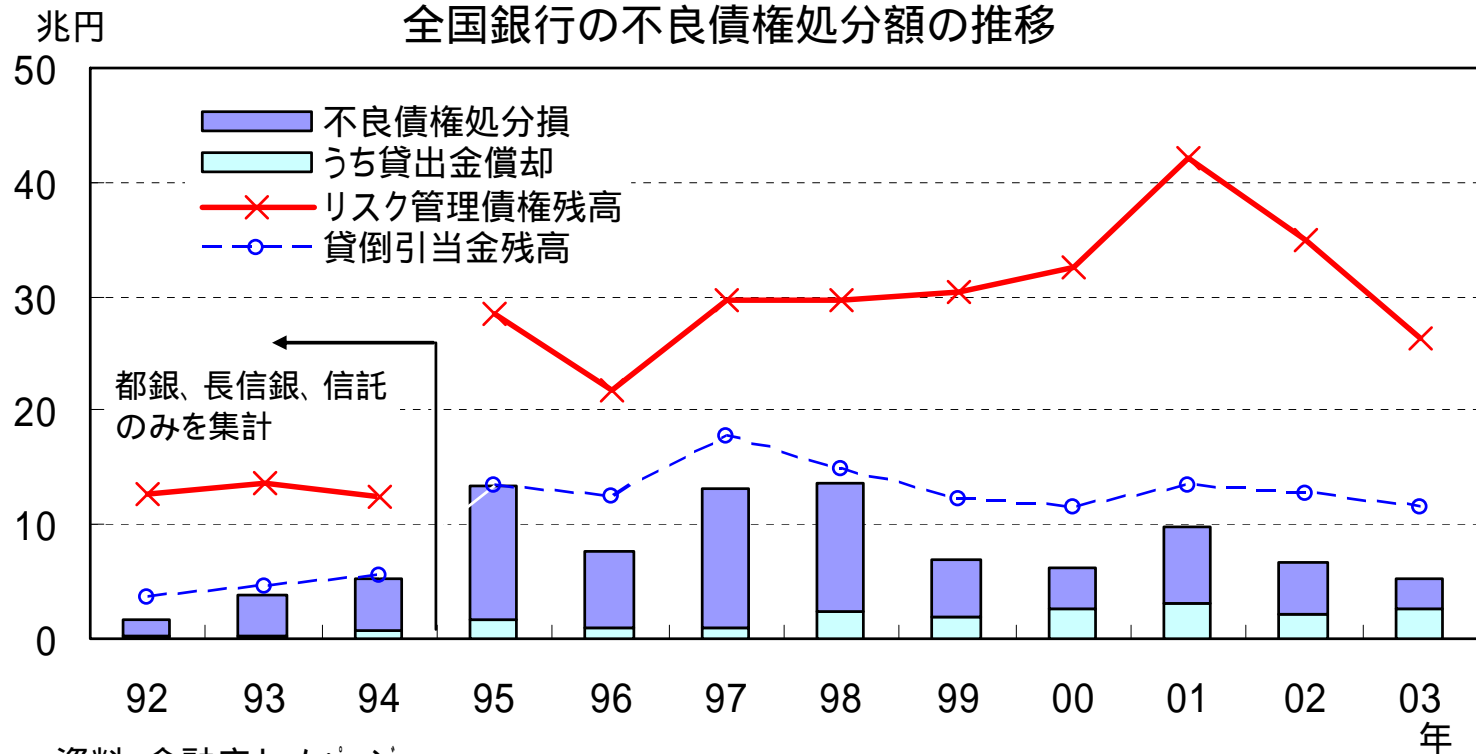
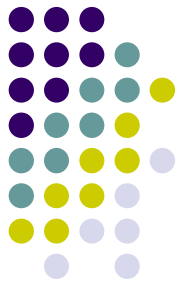
- 両者の境界はかなり曖昧：白か黒か決めにくい灰色の債権が沢山ある
 - 将来の前提のおき方次第で白黒の判定は大きく変わる + 将来を正しく予想することは難しい
- 健康診断では「正常値」の定義次第で判断が変わることと似ている



2. 不良債権の処理方法

- **直接償却** 資産として計上することを止め、期中の償却損を計上
- **間接償却**: 損失に備えた個別貸倒引当金(資産の控除項目)を計上 期中の経常費用の一つ(貸倒引当金繰入)
- **オフバランス化** 貸出金の額面よりも安く売り、期中に売却損などを計上
- **不良債権とされる企業を立ち直らせる**

2-2 不良債権の処分状況



・銀行は過去10年余で多額の不良債権を処理
 1992年度～2003年度の「不良債権処分損」(全国銀行)93.6兆円。この間の「直接償却等累計額」は42.5兆円 (金融庁ホームページ資料より)



3 . 制度面の遅れはかなり解消

- **バブル崩壊当初** : 不良債権を定期的・体系的に把握する制度なし + 不良債権の開示が未整備 地価回復への期待もあって、不良債権処理を先送りする銀行も
- … *日本の制度が環境変化に対応できていなかった面*
- **中年になっても定期健康診断を受けようとしない人に似ている**

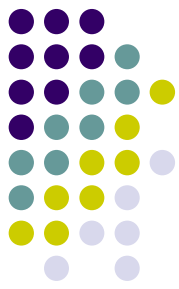
3-2 90年代後半の抜本的な制度改正

■ 財務諸表の透明性 などの諸施策

早期是正措置 (98年度) : 資産の定期的・網羅的な自己査定 (銀行) + **公認会計士等**のチェック 不良債権の償却・引当の適切化、さらに金融当局の検査・考査

不良債権に関する**開示義務** (対象債権や対象金融機関を段階的に拡大)、1998年に大幅拡大して米国並みに

3-3 抜本的な制度改革(その2)



金融関係の**専門官庁を設立**(1998年に金融監督
庁を設立、2000年から金融庁に)・・・**金融検査マニユ
アルの制定**(1999年)、**通達行政の廃止** **事務**
ガイドラインに集約(1998年)

税効果会計(1998年度)の導入: **税務会計と企業
会計の乖離を埋める手法。将来返ってくる税
金等を資産として計上できる**

中年以上の人に定期健康診断を義務付ける
社会に似ている。定期的な診断により、問題
点を早い段階から知ることが可能に!

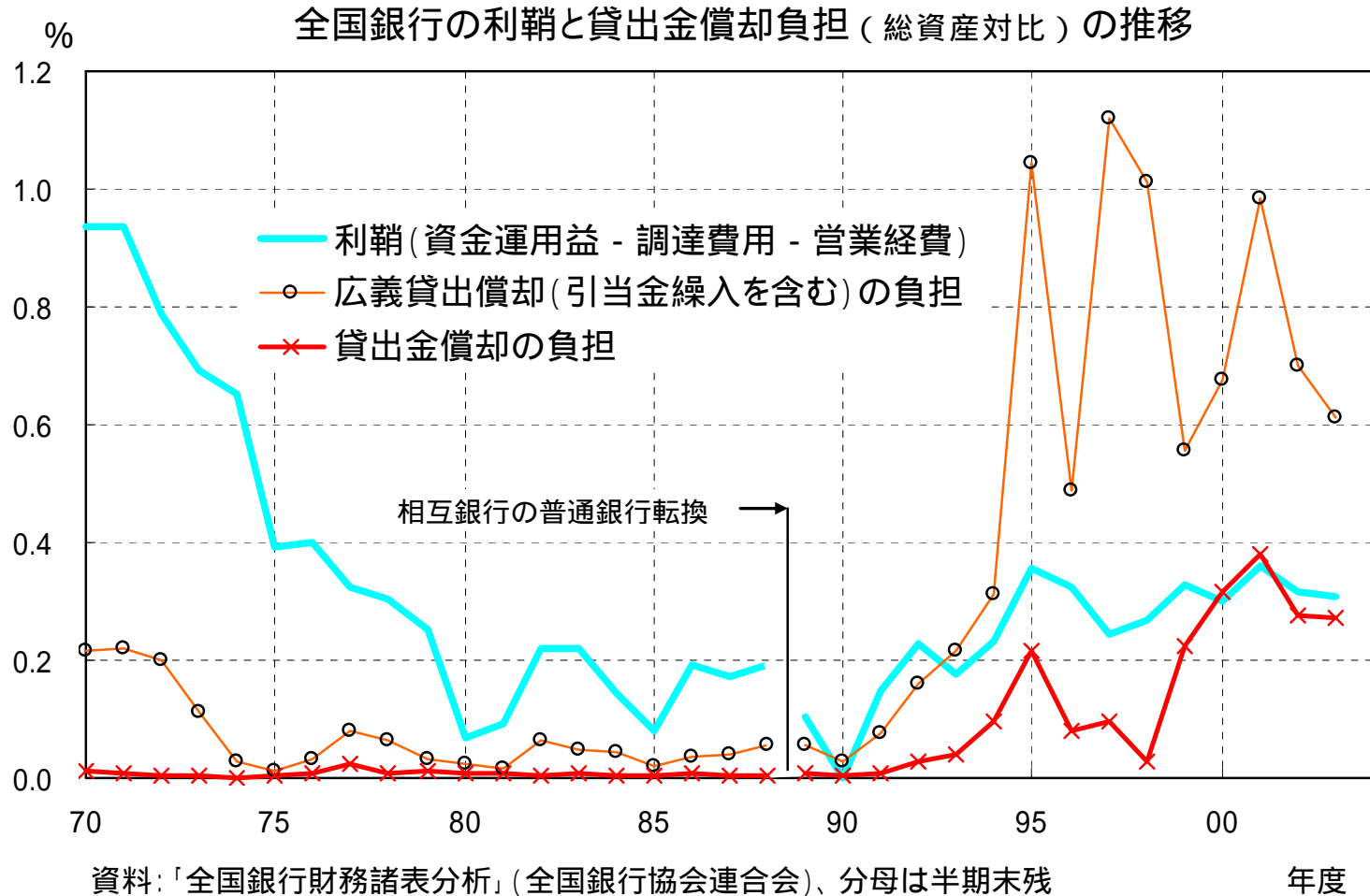


4. 不良債権はなぜ問題？

- 不良債権処理後に赤字となる銀行も
 - …貸出等の収益 < 償却・引当の負担
 - という銀行が少なくない
- からだを壊して収入が支出を下回り、貯蓄を取り崩している家計に似ている
- 有価証券含み益などを吐き出した金融機関は「タケノコ生活」を送っている



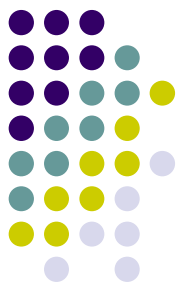
4-2 銀行業の収益性の低下





4-3 今日の銀行業の問題点

- 本当の問題は、銀行に不良債権があることではなく、**不良債権を償却するだけの金利をとれていないこと**
 - … 正しいリスク管理が出来ていないこと
- からだに悪いところがあっても、お医者さんに**正しい診断**をしてもらい、**生活面の注意点を学んで実践すればよい筈**。銀行は、**節制の出来ない人と似ているのかも？**



4-4 金利が低い一つの理由

- 銀行が自らの貸出について**正しいリスク評価**が出来ていない面も
 - 例えば、安全な借り手に低金利で貸出競争
リスクが高めの借り手を不必要に敬遠(金融検査マニュアルの字句に囚われる銀行も)。金融のプロとしてリスク管理のノウハウが求められる。
- こうした銀行は、後先を考えずに体力を無視した安値競争をする人や、「**羹に懲りて膾を吹く**」人に似ている



4-5 最近の銀行行動の特徴

- 最近では、**金利引上げ**を図ったり、**貸し渋り**を行ったりする銀行もあるといわれる。
リスクの高い借り手に対しては合理的な行動ながら、
リスクの低い借り手に対しては不合理な行動。
- 思い込みが強く、食わず嫌いの人に似ている。度が過ぎると、栄養不足等だからのバランスを崩すことになりかねない。
- 貸出金利はリスクに応じて異なって当たり前だが、
世間では理解されない面も(もし金利がみんな同じなら、
リスク の努力をした人が報われな!!)。努力した人が報われる社会が望ましいのでは？



5. リスク管理を行うためには？

- 経験や勘だけでリスクを管理するのは難しい時代になった(例:バブルの崩壊)。
データの蓄積などを利用して、**統計学的に分析することが大切**な時代に。リスクに関するシミュレーションを行うことも一般化しつつある。**経済理論**の知識も大切。
- 「文科系だから数学はいらない」という**甘えは許されない時代**でもある。



5-2 リスク管理の基本(その1)

- 自らの抱える**リスクを正しく認識**し、それに対する**正しい対応策**を取ることが望まれる。
例 リスク削減策の実施、
リスクに対するプレミアムの徴収、
リスクに堪えられる**体力** (自己資本 等)
- 「**彼を知り己を知れば百戦殆(あやう)からず**」
(孫子)が**リスク管理の要諦**。



5-3 リスク管理の基本(その2)

- **リスク管理は1回きりのものではない**。環境の変化に伴って、基本動作を何度も繰り返して行くべき。
- 過去の事例、他社の事例等を参考にして、自らの置かれたリスクを認識するための**健全な想像力**が不可欠。
- 担当者だけでなく、経営陣や他の社員、子会社の社員など**全社員が必要に応じてリスク管理に関与するべき** (あなた任せでは済まない)



5-4 リスク管理の基本(その3)

- 欧米の銀行は、統計学などを用いた高度なリスク管理手法を発達させて来た。
- 日本の銀行でも、**現在キャッチアップが求められている** (金融検査マニュアルでもリスク管理の高度化が求められる)。日本でも**製造業ではリスク管理が大きな成果を挙げており、銀行もその気になれば出来る筈。**
- **銀行志望者に限らず、リスク管理に関する知識は今後の企業経営にとって不可欠。**